第16号
1999年2月

社會經濟史學會中國四國部會
會報

〈発行〉
会報編集委員会
岡山大学経済学部内
岡山市津島中3-1

1．1998年度 総会記録

1998年度総会は、11月7日（土）、大会第1日目の報告ののち、事務局員の在間宣久氏の司会で、5時40分から開かれました。代表理事の神立春樹氏の挨拶のあと、次のような報告・議案が提出され、了承されました。

(1) 1998年度事務報告

ア．活動報告

・1998. 1.30 ：会報第14号の発行・送付
・1998. 7.31 ：会報第15号の発行・送付、大会開催予告、発表申込の 受付など連絡
・ 8.26 ：理事会開催通知
・ 9. 5 ：理事会開催（於、岡山大学経済学部410号室）

参加者：加藤房雄・道重哲男（広島）
平田桂一（愛媛）・
神立春樹・在間宣久・森元辰昭（以上岡山）
三好昭一郎（徳島）

議 題：

1．報告者・報告論題、司会者の決定
2．2000年度大会開催地について－島根大学にお願いする。
3．その他
(1)2001年度の大会を徳島で開催する。
(2)1999年度大会（岡山）までに「規約」を作成する。
(3)来年度までに新たな「会員名簿」を作成する。

・ 9.20 ：報告者・報告論題決定通知以後は、開催校（広島大学）による大会諸準備に入った。
・ 10. 7 ：理事会結果報告（理事宛）

イ．会員の状況

1996年度会員 152名（1996.10.31現在）
1997年度会員 163名（1997.10.31現在）
1998年度会員 175名（1998.11. 3現在）

増減内訳

：＜退会者＞ 国島浩正（香川））
日下部正盛（愛媛）、村上和馬（愛媛）
原竜雄（島根）、中山精一（鳥取）
以上5名

：＜新規加入＞
大川篤志（岡山大学大学院生）
森田美樹（広島大学教育学部）
黒澤隆文（広島大学経済学部）
永谷美樹恵（山陽学園大学生）
渡辺孝次（松山大学経済学部）
伊藤琢磨（広島大学大学院生）
青木 敦（岡山大学文学部）
井田泰人（広島女子商業短期大学）
落合 功（広島修道大学商学部）
若林義夫（岡山部落解放研究所）
岡本 明（広島大学文学部）
品部義博（岡山大学環境理工学部）
藤田哲雄（広島修道大学経済学部）
高橋基泰（愛媛大学法文学部）
武田元有（鳥取大学教育学部）
河田 章（関西高校）
中川雄二（広島大学生物資源学部）
以上17名

(2) 1998年度会計報告-以下の報告がなされ、了承された。

１９９８年度会計報告（1997.11.3～1998.11.6）

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	314,115	封筒・切手代、用紙代	40,325
会費徴収（11/4現在）	144,000	（発送事務ｱﾙﾊﾞｲﾄ20,000）	
92年度 3口 3,000		ファイル代	609
内 93年度 3口 3,000		大会補助費	30,000
94年度 4口 4,000		理事会弁当代	15,000
訳 95年度 4口 4,000			
96年度 9口 9,000			
97年度 20口 20,000		小計	85,934
98年度 90口 89,000			
99年度 7口 7,000			
00～02年 5口 5,000		次年度繰越金	372,181
合計（11/4現在）	458,115	合計（11/4現在）	458,115

(3)大会決定事項

ア．次回の開催校：岡山大学にお願いする。

イ．次々回の開催校：島根大学にお願いする。2001年の大会は徳島で開催する。

ウ．1999年度大会（岡山）までに「規約」を作成する。

エ．来年度までに新たな「会員名簿」を作成する。

１９９９年度役員一覧

代表理事　神立春樹

理　　事　松尾　寿（島根）、下野克己・森元辰昭（岡山）、道重哲男・加藤房雄（広島）、及川順（山口）、伊丹正博（香川）、三好昭一郎（徳島）、平田桂一（愛媛）、田村安興（高知）、（鳥取は空席）

監　　事　辻岡正巳・太田健一

幹　　事　井上　洋、千田武志、安蘇幹夫

顧　　問　内藤正中、比嘉清松、奥田秋夫、渡辺則文、髙橋　衛、小川國治

事務局　森元辰昭（事務局長）、在間宣久

社会経済史学会理事　岩橋　勝、神立春樹

事務局　〒700　岡山市津島中３丁目１番地

岡山大学経済学部　電　話　086-252-1111

（代表）内線7535　直　通　086-251-7535

ＦＡＸ．086-253-1449（経済学部事務部人事係に設置）

郵便振替口座番号　01290-4-12846

（加入者：社会経済史学会中国四国部会）

２．１９９８年度大会報告

1998年度大会は11月7（土）、8日（日）の両日、高知大学人文学部を会場に開かれました。最初に、高知大学人文学部長の渡辺輝道先生から歓迎の挨拶をいただき、続いて以下の報告および討論が行われました。

〔研究報告〕

《第１日目》11月7日

１．近代イギリスの都市問題と田園都市運動

岡山市役所　大塚利昭

司会　平田桂一

2．草創期電力会社の分析
　　－広島県を中心として－
　広島大学大学院生　　伊藤琢磨
　　司会　　森元辰昭
3．人口密度から見た都市構造の変遷
　　－岡山市について－
　岡山大学大学院生　　李
　　司会　　在間宣久
4．香川県における農地の公共的管理
　岡山大学大学院生　　品川　優
　　司会　　坂根嘉弘
5．明治期における花莚業の展開
　　－岡山県早島町の事例－
　岡山大学大学院生　　上廣尚子
　　司会　　三好昭一郎
6．日本における地主小作関係の特質
　広島大学経済学部　　坂根嘉弘
　　司会　　有元正雄

総　　会（上記を参照）
懇　親　会　高知大学内「おうちクラブ」で開催。

《大会２日目》11月8日

7．近代日本における化学工業の生成－日本舎密製造会社の成立過程を例として－
　九州国際大学　　畠中茂朗
　　司会　　下野克巳
8．パネルディスカッション（高知大学）
　　統一テーマ　「土佐の自由民権」
司会：田村安興（高知大学）
報告者
・土佐自由民権運動の全盛期の概観
　高知大学　　松岡僖一
・地域名望家の民権と勧業
　高知県立歴史民俗資料館　下村公彦
・土佐の自由民権と女性
　高知市立自由民権記念館　筒井秀一
・高知西端のまち宿毛と明治
　宿毛歴史館　　矢木伸欣

・ディスカッション
司会：田村安興氏
＜立志社の立場を士族自由民権という観点からでは、明治１４年１０月の自由党結成について、土佐派が中心になっていった説明がつかない。全国指導に足る内実を土佐がもっていたこととみるべきであり、パネルディスカッションの主要テーマとなる＞
　　報告に対する質疑、討論
1．松岡報告
＜神立春樹＞懇談会に関して、職業による階層別懇談会が開かれたとあるが、懇談会どうしが交流する懇談会があったか。
＜松岡＞地域別の懇談会もあったからこれで交流している。
＜村山　聡＞夜学会のない集落をどのように考えるか。
＜松岡＞学校・寺子屋・夜学会の３重の構造があった。高知市内から離れた地方では報告がない場合が考えられる。特に、帝政派の運動は、３つの拠点があり、分掌をつくって活動していたので、もっと多くあったはずである。
2．矢木報告
＜森元辰昭＞「機勢隊」は宿毛の武士だけの組織か。農兵隊はなかったか。
＜矢木＞武士だけの組織で１００名程度であった。
＜神立＞宿毛と高知本藩との関係は如何。
＜矢木＞高知本藩に対する反撥があって、活性化したのではないか。本藩との関係は独立していこうとしつつ、密接な関係を持とうとしていた。
＜田村、補足＞宿毛は宇和島藩との関係が深い。言葉も、いわゆる土佐弁ではない。
3．下村報告
＜神立＞ダンボール４０箱の史料のうち、一番古い史料はいつごろか。

＜下村＞調査中であるが、家系の表現のなかで、宝暦以前がみられる。

＜日南田静眞＞「ほりい」は掘井か堀井か。

＜下村＞両方使用しているが、掘井が正式だと考える。

＜森元＞掘見家②の史料中「家憲」とあるが、いわゆる「家憲」を作成しているか。

＜下村＞今のところ不明

4．筒井報告

＜有元正雄＞レジュメ３枚目、「女風改良会（仏教系）」とあるが、高知も郡によっては真宗が多い。

真宗は江戸時代に「女人講」があったが、他の宗派であったら、日本で最初の組織になる。

＜筒井＞女性の投票権に関して、窪田次郎は明治３年に女性の投票について述べており、（？）、仙台では明治１３年に女性の投票が行われていた。

ディスカッション

＜神立＞非常に面白い報告であった。松岡氏に関して、盛んに夜学会などが行われたが、インフレ・デフレ期との関係は如何。

＜松岡＞運動の最盛期（明治１３－１４）はインフレ期であり、経済的な余裕が運動を盛んにした背景である。デフレ期に入ると、経済問題が重要性を帯びるが、自由党中央は、経済問題は主要な問題ではないとする消極的な態度であった。豪農商は２面性を持っていた。日本の近代化をはかるという立場で、自由民権運動にシンパシイを、他方経済問題では県の勧業課との関係が深い。この２面性は、民権派と帝政派がぶつかるときに混乱をきたす。＜例＞伊野の海南実利党‥明治１５年、約２００名で結成。和紙の生産地。『海南実利雑誌』を発行しているが、改進党に近い主張をしている。

＜神立＞デフレ期以前の民権派と帝政派との交流などがあったか。また、集会の性格は。

＜松岡＞話はしていたが、懇親会は村の寄り合いとは全く違う性格、郡部では14,15,16年の３年間、各集落で１～２回程度の懇親会を開き、高知市から民権家を講師として呼ぶ。

＜三好昭一郎＞八木氏への質問。「機勢隊」に関して、官軍に参加するが、本藩との関係は？徳島の場合は、稲田（？）の家老は、藩とは別に官軍に参加している。版籍奉還以後、宿毛の陪臣たちは士族に編入されたか否か。

＜八木＞宿毛から軍隊を出したが、大江卓らは、軍隊出動を本藩に申請している。明治２年の藩政改革で、陪臣は土佐本藩の士族に編入されている。

＜佐藤正志＞夜学会に関して、日露戦争後夜学会が各地で開かれる。目的や方向は違うが、自由民権運動の遺産といえるか否か。

＜八木＞いまだ研究中であるが、研究の方向としては、自由民権期に少年・青年・壮年で参加しているので、１０年期間で区切ってみてどのような変化がみられたかを考えてみたい。

＜森元＞明治１３年の集会条例との関係で、演説会・懇親会・夜学会はどのように変化したか。例えば、岡山の美作地方の演説会では、農業に関する演説会・研究会のような装いをして、内容は民権を述べるというような事実がみられたが。

＜松岡＞『高知新聞』など集会条例を全く心配していない。逮捕されると、箔がつく風潮であった。１４年の「詔勅」以後に本格的な言論統制が始まると考えている。また、高知の自由民権では、天皇批判が全く出てこない。むしろ天皇の権威を逆利用して、天皇の意志を政府が実行していないとの立場で、政府攻撃を行っている。１５年に制定された不敬罪は、土佐民権家が最初に適用された。自由民権家が天皇制を内面化する役割を果たしたと考える。

自由民権運動に一貫しているのは勧業という立場である。政治はその時の動向で動くが、豪農たちは勧業で県とつながり、これを基礎として政治活動をしている。

＜有元＞地域との関係で内容の濃い報告であった。自由党激化事件との関連で、１７年頃まで西日本で激しい運動がでなっかったのはなぜか。

＜松岡＞土佐では、１６年半ばから運動が急速に衰退する。減租請願運動など土佐でも激化事件が起こっても不思議でない背景はあったが、土佐は自由党中央の方針がそのまま入ってしまう。中央は官民調和論であり、対外的危機が強調される。自由党解党後は片岡健吉などは朝鮮改革運動に転換、国権拡張論へかわる。

課題として、壬午軍乱～清仏戦争期に、土佐自由民権運動は如何なる変転を遂げたのか、日本人民の朝鮮人観を反省してみる必要があること、アジア盟主論との関連を研究していく必要がある。

＜以上は、事務局の森元がメモしたもので、中座したこともあるので、欠けた部分や、発言の真意が伝わっていない場合も考えられます。間違いがあれば、連絡して下さい。敬称・所属は省略しました。

なお、この報告は、1998年11月20日岡山近代史研究会第199回例会で「自由民権運動研究の新たな動向－社会経済史学会中国四国部会報告－」と題して、４氏のレジュメとともに報告したものです。＞

３．大会参加記

１．学会開催後記

高知大学人文学部教授　田村安興

社会経済史学会中国四国部会開催の重荷をやっと果たせて一段落しました。報告の中には私の関心の深い分野のすぐれた報告もありました。地元での共通論題「土佐の自由民権」は学会の性格にふさわしくないと思いつつ、私の人脈では、地元報告としてはこのテーマしかありませんでした。近年この分野の研究は一時の高揚期を過ぎ、やや停滞傾向にあると思われます。報告は総論的報告を除き、やや力不足の感は否めませんでした。また、フロアとかみ合う議論が展開されたとはいえませんでした。これもその多くが司会者の力量不足と反省しております。

土佐の民権は、東北のような豪農中心の激化事件がなく、士族反乱の延長、もしくは板垣主導の変質・変節した一派と見られてきましたが、逆に、激化事件の位置付けは土佐から見ると、展望を失ったアナーキズムに見え、土佐こそ自由民権が県民ぐるみで行われた運動と見えます。

学会部会では土佐自由民権全盛期を中心に見ましたし、従来の研究もどうしてもそこが中心でした。しかし、土佐では今後、初期立志社の研究を行おうと話し合っています。自由民権を今日の左翼の視点からではなく、また右からの視点でもなく、当時の人々の目線でいかにみるか、今に生きるわれわれの大きな課題です。また、経済史的視点からの実証があまりにも貧弱です。私たちの、いえ私自身の課題でもあります。次回本校で開催する際にはその課題に答えたいと密かに考えています。

２．個性豊かな先生方と

高知大学人文学部生　結城あさか

遠方からはるばるいらっしゃる多くの先生方に、まるで「ようこそ土佐へ」と云わんばかりの晴天に恵まれた学会当日、私は朝から妙にそわそわしていました。それは久々にスーツを着る喜びからか、いや、何よりも初めて学会のお手伝いをするという緊張感からだった様な気がします。私にとって学会は、ま

だ、未知の世界でしたし、そこに集う先生方は未知の人々で、学者なのだからきっと大変まじめで頭の固い人たちに違いない、と想像しては緊張していたのだと思います。

しかし、実際はその逆でした。強面だと思っていたら、私たち学生ににこやかに接して下さり、ねぎらいの言葉までかけていただいて緊張で氷のように硬くなっていた私はだんだんと自分を取り戻せたような気がします。

夜のお食事会でも多くの先生方と楽しくお話することができ良い意味で学者のイメージが変わりました。つまり、皆さんとても親切でいつまでも夢を抱きつづける人、ユーモアたっぷりの人、お酒が入って自分の研究テーマを更に熱く語る人、一口に学者と言っても皆さんいろいろなんだと当たり前のことを再確認できた日になりました。

不慣れで、拙いお手伝いでしたが皆さん、ぜほまた高知にいらして下さい。その時はきっと、もっと上手に対応できるようになっていますから。そして、もし、学会のときに目に余りましたことがありましたら、こっそりと叱ってください。

3．＜学会での思いで＞

高知大学人文学部生　水野妃菜乃

私は、田村安興先生のゼミに所属しておりまして、今回、二日間にわたり、学会のお手伝いをさせて頂きました。

初めは、「学会」のお手伝いと聞いてひどく緊張しておりました。学会に来られる方は、研究一筋の真面目な方ばかりと思い、「カタイ」イメージがあったからです。しかし実際、皆さん、やさしく声をかけてくださり、緊張もイッキみ吹き飛んでしまいました。

学会の後の懇親会も盛り上がり、大変楽しい時間を過ごすことができました。中には、親身になって、人生のアドバイスをしてくださったり、お酒でほんのり頬を赤らめて、ニコニコニコニコされてる方など、まさに十人十色で、非常に楽しませて頂きました。

この二日間は、あっという間に過ぎてしまいましたが、私たち学生にとってめったにない、大変貴重な経験になりました。諸先生方には、大変お世話になりました。また、機会があったらぜひ、参加させていただきたいとおもってます。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

4．「原稿募集」について

事務局では、ここ数年のうちに著書を出版された方の、思いのたけを書いていただきたく、「新コーナー」を設け、原稿を募集します。研究の動機、著作では果たせなかったこと、エピソードなどを自由に書いていただきたいと思います。掲載は次号（6月発行）からの予定です。

字数：１６００字以内（フロッピィデスクーtext．fをお送りいただきますと助かります。）顔写真もＯＫ－ただしただいまスキャナー取り込み勉強中。うまくいくかどうかは不明。

〆切：まずは5月末日

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

編集後記

寒中お見舞い申し上げます。「会報第１６号」をお届けします。今回は、１１９８年度大会の報告特集です。１９８７年度大会以来、11年ぶりの高知大会ですが、今回は田村安興先生のご尽力で、盛大な大会を開くことが出来ました。また、パネルディスカッションでは、松岡僖一・下村公彦・筒井秀一・矢木伸欣の４氏に貴重な史料紹介とともに報告をいただき、活発な議論が展開できました。大会運営に関しては、高知大学人文学部の学生諸君に大変お世話になりました。感想をお送りいただきましたが、大会の雰囲気がよく表現されていると思います。ともに感謝の意を表します。今後とも、刺激に富んだ学会にしていきたいと考えているところです。（森元　記）